

北見日赤にPETセンター開設

効率的がん治療期待

きたみ医療
さみツト

改築中の北見赤十字病院(日赤)に新たに誕生する「オホーツクPETセンター」を考えるきたみ医療サミットが3日、北見日赤で開かれた。全国の3次医療圏で唯一整備される

PETセンターを考えるきたみ医療サミットが紹介された。同センターの役割を知り、市民がどう利用すべきかを考える狙いで、北見赤十字病院の

明日を考え支援する会(谷川勝男代表)が企画。吉田茂夫院長や北見市の竹内博己地域医療対策室長、会員ら約10人が出席した。

同センターは新病院に隣接して4月1日に開設予定。PET-CTは短時間に高画質な撮影が可能で、吉田院長は「がんの場所が特定されることで、効率的に放射線治療ができる。それによる副作用も少なくなる」と説明した。また、受診費用を抑えたがん検診での利用も検討していることを明らかにした。1日8〜10人の利用を想定している。

会員からは「PET-CTの利用で旭川の病院に通わなくてよくなるのはうれしい」が、患者には「心強い」などの声が出た。谷川代表は「センターの役割の大切さがわかった。会として市民に知らせる方法を考えたい」と話した。(相川康暁)



オホーツクPETセンターの概要を説明する吉田院長(中央)

大正時代から続く伝統体験

氷下ワカサギ漁に興奮

網走湖で今季初ツアー



氷下ワカサギ漁を見学する観光客ら

【網走】全国でも珍しい網走湖の氷下ワカサギ漁を見学するツアーが2日、今季初めて行われ、観光客ら12人が大正時代から続く漁法を体験した。3月上旬まで続くイ

ベント「北の新大陸発見! あったか網走」の一環で、5年目。参加者は呼人浦キャンプ場からスノーモービルで漁場へ移動。ガイドから「氷の下に張った網を機械でたくり

寄せる漁法で、東北からの入植者が持ち込んだ」と説明を受けた。ワカサギがいっぱい入った網が氷に開けた穴から引き揚げられると、参加者は大興奮。より分けられたカレイ

を狙ってオジロワシが眼前まで飛来する場面もあった。十勝管内音更町のパートナー白木佳さん(32)は「昔の人の知恵を感じた。オジロワシも見られて感動です」と話